

〔舊錄^中〕煙具諸圖雜載

尾州草月菴藏 同製^{○本邦創}煙管 江州水口製 水口權兵衛吉久^{以假鑰製之、筒用竹管長三四寸○圖略}

本邦煙管、今時所用形狀數品、各從時俗、而變改者、不遑枚舉、是皆人之所見而知也、唯此品以其創制、故摸出之、

〔本朝世事談綺正誤^{器用一}〕水口權兵衛所造煙筒圖、雖載舊錄、年號無之、余所見者、有天正五年之

刻、所藏之人所以真物、而寫云、故今摸出之、美成^{○山崎氏、圖略}

〔嬉遊笑覽^{器用二}〕水口は桐の紋を付、吉久といふ文字あり、風流旅日記^三 水口させる名物なり云々、

火皿に水口とほり付るはいかゞといへり、此桐の紋を、豊臣公の頃、御免をうけて彫付といへるはいかゞし、上に引る訓蒙圖彙に、近ごろといへるにかなはず、

〔色音論^末〕此ごろ世間にはいかなることやはやるらんかたり賜へといひければ^{○中}されば^{○中}まてらも多けれど、ほつけのおてら御門跡上手のくすしもろはくと、再波たばこに肥後させる、

くはんせがしまひ、こんはるがうたひは、今のはやり物、

〔雜兵物語^下〕若黨

左助

おれがきせる。袋に、毛たてばしが有、矢の根をぬくべいとおもつて、入て來た、^{○下}

〔賤のをぞ卷〕一させるも品々流行たり、^{○中}きせる袋も其比^{○延享}は皆衣類のたもあまりなん

どにて、手前縫にしたり、

三翁^{○森山}が在番の比^{○安永}は、^{○中}たばこ入させる。筒を、忍ぞにしきなごにて拵へ、銀のくさ

りを長く紐にして、銀の火はたきを根付にして用ひたり、近き比に至り、革のきせる筒を仕出し

て、男向御番御役つとむる者などは、一般に革のきせる筒を用ることに成たり、是等は革の方

をなしく、やにも通らず、一段と入情の趣く所よろしかるべし、

煙管具